

講義科目名称： いわて学B

授業コード： 0000502

英文科目名称： Study of "Iwate" B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～4年	2.0	選択
担当教員			
渡部 芳栄、天野 哲彦、高瀬 和実			
高等教育推進センター			
添付ファイル			
<p>正課学生以外の受講（■：受講可） （□：受講不可）</p> <p>正課学生以外の受講 <input type="checkbox"/> 他学部・他学科 <input type="checkbox"/> 4大・短大間 <input type="checkbox"/> いわてコンソ <input type="checkbox"/> 科目等履修等</p>			
教育課程	基盤教育科目 教養科目 地域教養 地域学習		
授業形態	講義		
資格対応			
授業のねらい・概要	<p>「いわての現在・未来」をテーマとして、各種データを活用しながら多面的な岩手の理解と魅力、課題を発見する。そして今後どのようにその課題にアプローチし、岩手の地方創生に結ぶ付けることができるかを考える。</p> <p>※本科目は岩手県立大学「文理融合データサイエンス教育プログラム<応用基礎レベル>」の関連科目に位置づく。</p> <p>※本科目はいわて高等教育コンソーシアム「地域リーダー育成プログラム」のコア科目に位置づく。</p>		
キーワード《5つまで》	SDGs 地方創生 岩手の魅力 岩手の課題 岩手の発展		
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活性化のためのAI・ICTの可能性を考えることができる。 ・岩手県における様々な分野・領域について、資料とともに各種データを活用しながら、その特徴を理解することができる。 ・データを活用・分析して、岩手の強み・弱みを明らかにし、これからの地域発展における課題を考えることができる。 		
授業の位置付け	共通の柱：「幅広い教養」「社会への関心」「課題解決・解決能力」に関する科目である。		
授業の計画	<p>各分野の担当教員が、様々なデータを活用しながら岩手の現状の理解を促す。データを活用した地域理解や可視化のスキルを身につけつつ、そのスキルを活用して地域課題を特定し、グループワークを行い、その課題に関連したプレゼンテーションを行う。授業時間としては、第2回～第11回はオンデマンドで実施、第12回～第14回は対面でのグループワーク、第15回が対面でのプレゼンテーションを予定しているが、適宜課題の実施と進捗管理はWeb上で行うため、授業外での主体的な学び（調べ学習、まとめ）・関与が前提となる。</p> <p>第1回（10/1 10時～12時）：ガイダンス 第2回～第11回：データも活用した岩手県の諸領域（医療保健・看護、福祉、地方行財政、地域資源、スポーツ・運動等）の特徴の理解 第12回～14回（12/3, 12/10, 12/17 10時～12時）：グループワーク 第15回：プレゼンテーション（1/7 10時～12時）</p>		
教科書【学生が必ず準備するもの】	特になし		
参考書等	竹村彰通他編，2021，『データサイエンス入門（第2版）』学術図書出版社 北川源四郎他編著，2021，『教養としてのデータサイエンス』講談社		
授業の形式	対面（ガイダンス、グループワーク、プレゼンテーション）及びオンデマンド形式		
成績評価の方法	各回の授業の振り返り及び中間課題（40点）とルーブリックによるプレゼンテーション評価（60点）による総合評価		
授業前・授業後の学修	<p>オンデマンドによる第2回～第11回は個々の学生の主体的な取り組みが求められる。動画視聴と復習・振り返りに各回150分程度時間をとること。</p> <p>また、プレゼンテーション作成に向けて、中間課題として個々の学生が発見したいわての課題等について提出する必要がある。</p> <p>グループワーク及びプレゼンテーションについては、授業外においても協働的な学びや密な連絡調整が必要となる。プレゼンテーション資料の作成については授業内ではその時々の進捗状況をみんなで確認・修正する作業とし、基本的な作成や個々の修正作業については授業外での主体的な取り組みが必要である。Slackを活用する予定であるが、報連相はしっかり行うこと。</p>		
履修にあたっての留意点	可能な限り、個人のノートPCを準備することが望ましい（数によっては貸し出し可）。		
実務経験を生かした授業内容			
備考	変更の可能性もあるが、場所は岩手県立大学滝沢キャンパス共通講義棟107講義を予定している（10/1, 12/3, 12/10, 12/17, 1/7）。		